

JR 宮中取水ダム魚道構造改善の取り組みとその効果

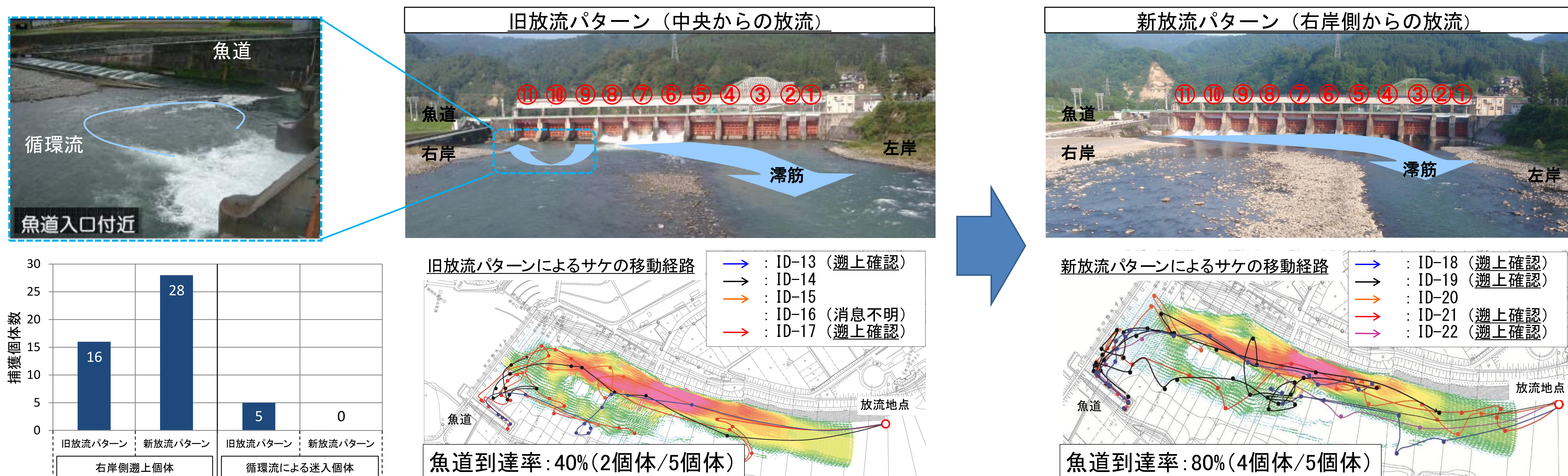
1. 魚道改築の背景

平成21年3月に開催された信濃川中流域水環境改善検討協議会の提言において、「ダム下流部との流れの連続性が確保されておらず、魚道入口が探しにくい」、「魚道に横波が発生している」という課題が挙げられた。
それに伴い、同年9月に学識経験者、内水面漁業関係者、地元行政機関、河川行政機関等からなる委員会を設置し、諸々の検討を実施した。そして平成23年から24年にかけて、委員会で承認された魚道構造改善計画に基づき魚道の改築を行った。

2. 魚道の課題と改善内容

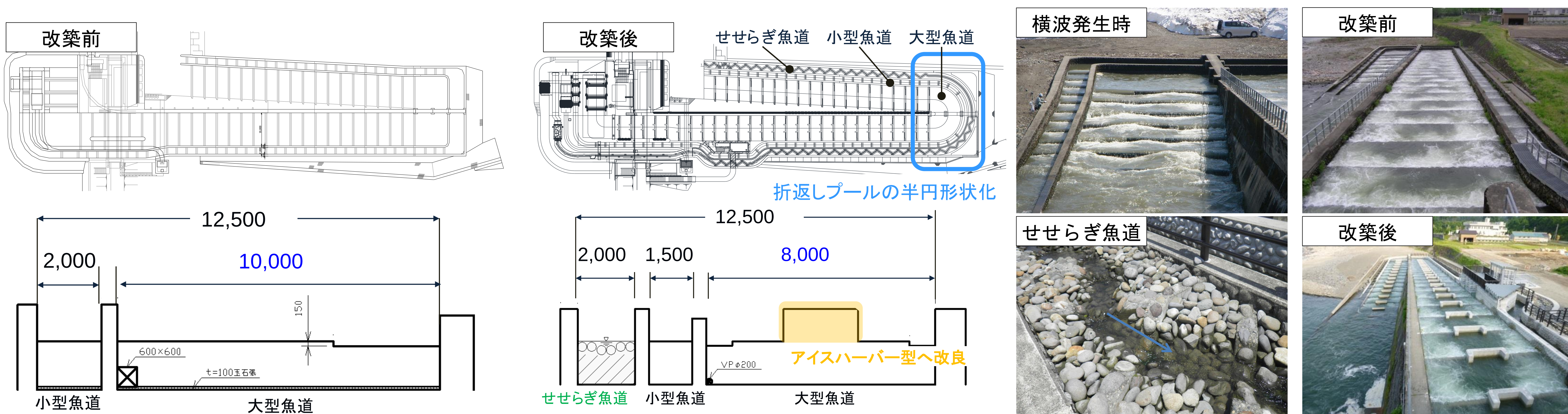
I. ダム下流部との流れの連続性が確保されておらず、魚道入口が探しにくい

⇒数値解析と現地放流実験の結果から導き出した放流パターンへの変更と、サケテレメトリー調査、アユ迷入個体調査による効果の検証を実施。



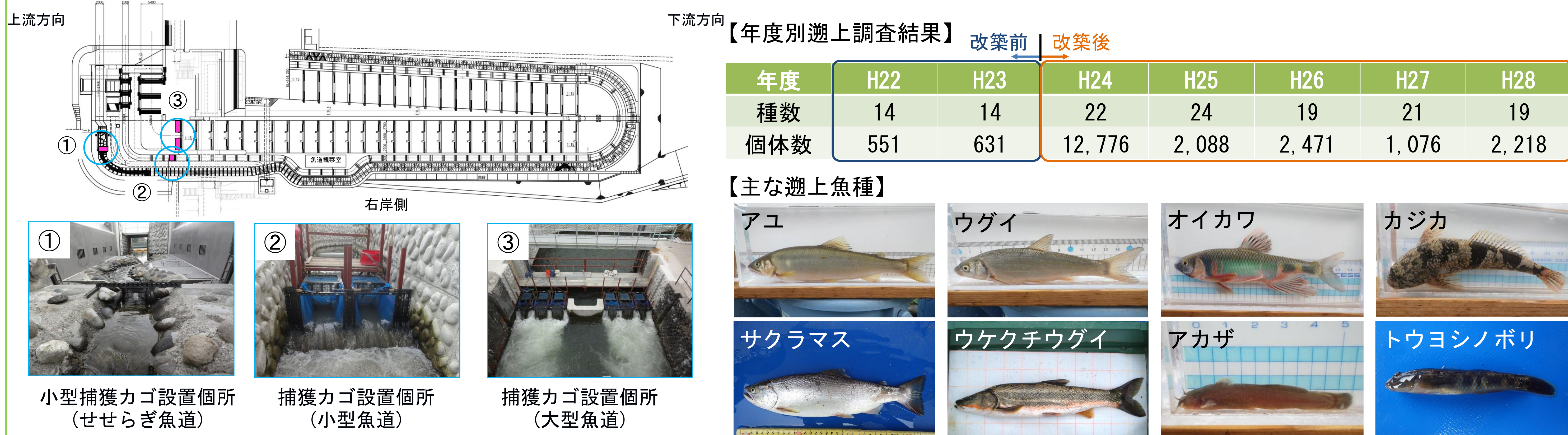
II. 魚道に横波が発生している

⇒魚道構造の変更を実施。変更に伴いせせらぎ魚道を新設し、より多様な魚種が遡上するための改築を図った。



3. 魚道構造改善の効果

魚道改築効果の検証のため、魚類遡上モニタリング調査を実施した。調査は改築前の平成22年から行い、現在も継続して実施している。



4. 順応的管理

改築後の順応的管理として、せせらぎ魚道のフラッシュ放流調査や、洪水期モニタリング調査、せせらぎ魚道の運用水深変更の検証等を実施している。今後も宮中取水ダム魚道を実運用していくうえで、目的としている機能を果たしているかを引き続きモニタリングを実施し、順応的管理を行うとともに、水力発電と河川環境との調和に取り組んでいく。

